

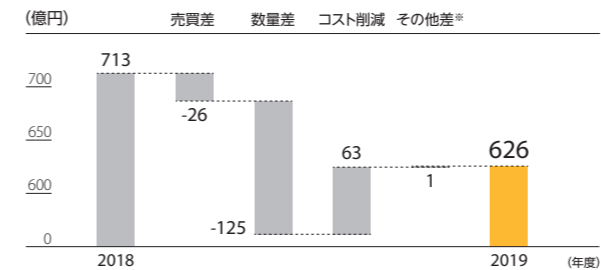
2019年度セグメント別実績

機能商品分野

機能商品セグメント

減収減益。売上収益は1兆816億円(前年比△739億円)となり、コア営業利益は626億円(同△87億円)となりました。機能部材サブセグメントにおいては、環境・生活ソリューションにおいて販売数量が増加したものの、半導体および自動車用途を中心に需要が低迷し、高機能成形材料の高機能エンジニアリングプラスチックなどの販売数量が減少したことにより、売上収益は減少しました。機能化学サブセグメントにおいては、高機能ポリマーのフェノール・ポリカーボネートチェーンにおいて、前期に実施した定期修理の影響が解消し、販売数量が増加したものの、前年上期に好調であった市況が下落したことにより、売上収益は減少しました。当セグメントのコア営業利益は、高機能ポリマーのフェノール・ポリカーボネートチェーンにおける市況下落の影響に加え、高機能成形材料の高機能エンジニアリングプラスチックにおける販売数量の減少等により、減少しました。

機能商品 コア営業利益増減要因



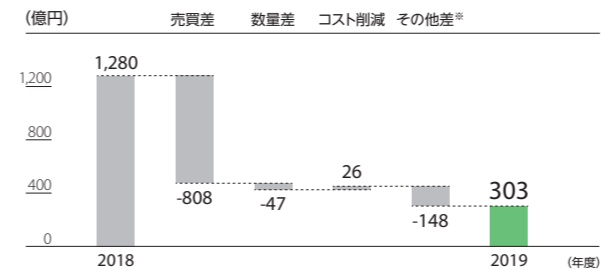
機能部材	
情電・ディスプレイ	光学系フィルム、液晶・半導体関連等
高機能フィルム	食品包装材、工業用・医療用フィルム等
環境・生活ソリューション	アクア、イオン交換樹脂、アグリ、インフラ資材等
高機能成形材料	炭素繊維、アルミナ繊維、高機能エンジニアリングプラスチック等
機能化学	
高機能ポリマー	フェノール・ポリカーボネート、機能性樹脂等
高機能化学	スペシャリティケミカルズ、食品機能材等
新エネルギー	リチウムイオン電池材料、シンチレーター等

素材分野

ケミカルズセグメント

減収減益。売上収益は1兆571億円(前年比△2,188億円)となり、コア営業利益は303億円(同△977億円)となりました。MMAサブセグメントにおいては、需要が弱含んで推移する中、MMAモノマー等の市況が下落したことにより、売上収益は減少しました。石化サブセグメントにおいては、エチレンセンターの定期修理の影響が縮小したことにより販売数量が増加したものの、原料価格の下落等に伴い販売価格が低下したことにより、売上収益は減少しました。炭素サブセグメントにおいては、原料価格の下落などに伴う販売価格の低下およびニードルコークスの販売数量の減少などにより、売上収益は減少しました。当セグメントのコア営業利益は、石化製品において定期修理の影響が縮小したことにより販売数量が増加したものの、MMAモノマー等の市況が下落したことなどにより、減少しました。

ケミカルズ コア営業利益増減要因

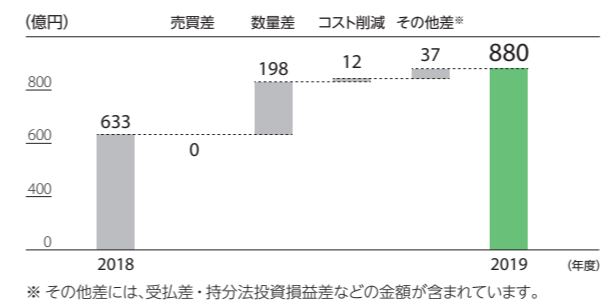


ケミカルズ	
MMA	MMA(原料) PMMA(アクリル樹脂)等
石化	石化原料・基礎化学品、ポリオレフィン等
炭素	コークス、炭素材、カーボンブラック、合成ゴム等
産業ガス	
産業ガス	産業ガス、産業ガス関連機器・装置等

産業ガスセグメント

増収増益。売上収益は8,433億円(前年比+1,105億円)となり、コア営業利益は880億円(同+247億円)となりました。産業ガスにおいては、前年下期に買収した欧州および米国事業の業績を取り込んだことにより、売上収益、コア営業利益はともに増加しました。

産業ガス コア営業利益増減要因

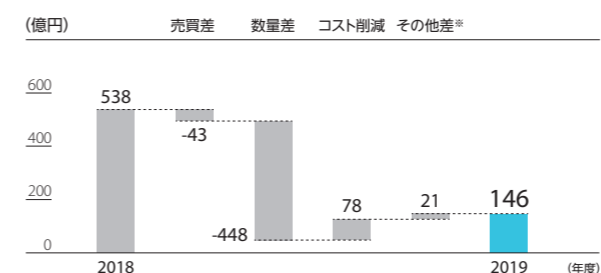


ヘルスケア分野

ヘルスケアセグメント

減収減益。売上収益は4,131億円(前年比△495億円)となり、コア営業利益は146億円(同△392億円)となりました。医薬品においては、国内医療用医薬品は重点品を中心に増加したものの、ロイヤリティ収入の減少などにより、売上収益、コア営業利益ともに減少しました。なお、Novartis Pharma AG社に導出した多発性硬化症治療剤「ジレニア」のロイヤリティ収入については、2019年2月に仲裁手続に入ったためロイヤリティ収入の一部について、IFRS第15号に従い売上収益の認識を行っていません。当連結会計年度においても、仲裁手続が継続しているため、売上収益の認識を行わず減収となりました。

ヘルスケア コア営業利益増減要因



ヘルスケア	
医薬品	医療用医薬品等
ライフサイエンス	カプセル・製剤関連機器※、医薬原薬・医薬中間体等

※ カプセル事業は、2020年7月に三菱ケミカルの高機能化学部門に移管しました。